

わたしたちの町

人口(男) 4,633人 (女) 4,969人 合計 9,602人 10月中の転入 12人 転出 24人 世帯数 2,318世帯

(10月末日住民登録調べ)

広報

あいかわ

昭和57年11月22日 第294号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 018678-2111

広報は、中学校生徒会に委託して各家庭に配布しています。(発行予定日毎月15日) 広報への意見や話題などをお知らせください。

'82/11月 294号

にぎわった三会場

豊作を祝い 文化に集う



第七回町産業文化祭は、七、八日、合川中学校、農業環境改善センター・保健センターの三会場で開かれました。晴天に恵まれて、今年の参観者は、およそ九千人。展示部門では千五百点をこえた出品作品が集まりました。記念講演は山田典吾氏の「映画とわたし」。映画づくりの中で出会った精神薄弱児童とのふれ合いが、感動と涙を誘っていました。催し物部門は「大野台農業開発」をめぐる談話会でスタート。駅伝競技の選手が南地区から、産業文化祭会場をめざし、町内を祝賀ムードでつつみまわりました。二日目の芸能部門は二十二団体が参加して熱演。出演者は延べ五百四十人を数え、年々、盛り上がりを見えています。「町づくりの総結集。総反省。さらに新たな町づくりのスタート台に」と、どの部門でも意欲あふれる視線が集まっていました。

第7回産業文化祭

北欧―秋田シンポジウム

雪国のくらしを 豊かに健康に

北欧との交流から秋田を考えるシンポジウム「講演と対話の集い」が、十月二十三日、県立菅野高等学校で開かれました。討論に参加した七氏から、「自然条件を生かして、豊かな生活を」と次々に提言。写真展、民芸品展示も行なわれ、参加者の目を楽しませていました。

このシンポジウムは、三回にわたるフィンランドなど北欧各国への研修成果のまとめとして開催。はじめに日本フィンランド協会専務理事 増田吉男氏がフィンランドの自然と文化を紹介。魅力あふれる北欧の風土が、参加者をひきつけます。

秋田魁新報社社長、奈良洋氏が司会して行なわれた話し合いの中から次のような提言が行なわれました。

▽住宅△ 寒さと雪の対策を

▽寒さと雪の対策を「窓を小さく、建物の表面積も小さく、厚い断熱材。▽雪落としのことも考えて。▽太い木材は断熱効果が大きく、中心までは燃えにく

▽食事・健康△ 体を動かして 新鮮な食品を

▽北欧と秋田県との共通の病気があった胃がんが、北欧では減っている。塩蔵品主体から新鮮な食品が多くなったことによると思われる。▽北欧も秋田も自殺率が高い。体を動かすことが大切で歩くスキー、お年寄りの仕事などをすすめる。

▽木材・森林△ ほしい 家族保養所

▽北欧では木材を100%活用し、ふしを気にしない。デザインも独想的で豊かだ。▽都市の大切な部分には木材が使われている。▽小径木も有効に利用されている。▽森林を生かして、家族が

長期間すこし保養施設などがつくられている。

大野台の夢 冬のスポーツ施設を

▽冬のスポーツ施設の建設をすすめるべきだ。▽お年寄りの仕事の場は大野台を利用しよう。▽道路を広げ、さらに夢のあふれる開発をしてほしい。

多くの提案をうけて、木村士郎大野台の里管理者が「大野台のフィンランド村構想に、園生たちも参加し奉仕していきたい」と発表。増田氏が「雪国の真の豊かさを求めるために、大野台が有効に活用されるように期待します」とまとめ、幅広い討論をしめくくりました。

討論参加者は次のかたがたでした。(敬称略)

能登義夫(東北木材(株)社長) 山本悦郎(榊山本建築設計事務所代表取締役)

島田彰夫(秋田大学医学博士) 井上正鉄(秋田大学理学博士) 木村士郎(大野台の里管理者)



七氏の話し合いは、身近な内容が多く県内各地からの参加者が熱心にメモをとる。

町長選挙・町議会議員補欠選挙

投票日は12月19日

立候補受付 12月12日午前8時30分から 12月13日午後5時まで

任期満了による町長選挙と町議会議員の補欠選挙(1名)の投票日は12月19日(日)です。選挙名簿の縦覧期間は12・13日の2日間。選挙人名簿に名前がないと、選挙権はありません。お確かめください。



あなたが主役・町を育てる正しい選挙

見えますか? おたくのめがね石

煙突のぬけ口のめがね石。せつかくのめがね石も、木で被われて、木が煙突に近いと役に立ちません。美感よりも安全です。

火災と事故のない明るい町をつくりましょう

町長日記から

今年の秋は天候がよく豊作で作業も早く済んだ。余り米が五千俵も出る見込みだ。ところで羽根山の金田謙吉さんが、数年前から茎(くき)の強いジャンボ稲から丹念に種籾をとって作付けしてこられたが、突然変異ではなくな安定した品種になりそうだとのことである。今年の五百七十キロ平均の町の反収に比べ、八百九十稀(まれ)である。(義)

大野台の里

おめでとぅ!!

園生三組が合同結婚式

総合社会福祉施設「大野台の里」で、十一月十二日、園生三組の合同結婚式が行なわれました。関係者の愛情と祝福につつまれて、新しい門出に大きな拍手が贈られていました。



新婚カップルは小林友満さんと工藤イヨさん、畠山信夫さんと小田島イヨさん、青山新蔵さんと佐々木照子さんの三組。大

野台の里で自立のための訓練を重ねてきました。

そうした中で、お互いの愛情が育かれ、職員や周囲の園生の暖かい援助の中で喜びの日を迎えたものです。三組の夫婦の住宅は、大野台の里の隣接寮施設での努力が実を結び、それぞれに勤め先を持っていきます。祝宴には両親や親せきの人たちもかけつけ、喜びでいっぱい。園生代表はじめ約百名が出席し、簡素な中に、感動的なお祝いが続きました。



野台の里で自立のための訓練を重ねてきました。大会には二十一チーム、応援団をあわせて約五百人が参加し、優勝は上杉A、②八幡台、③三木田、増沢。

町ゲートボール協会発足 第二回 上杉が優勝

第一回町民ゲートボール大会は十一月十三日、大野台ハイランドで開かれました。大会に先だって合川町ゲートボール協会の設立総会を開催。「大野台ハイランドでゲートボールの全県大会を」と張り切っています。

おしるせ コーナー

町のこよみ

(行事予定)

- 22日 東地区こよみ講座
23日 百キロコンベンション
23日 地域づくり研修会
27日 成人学級役員研修会
28日 母の実特別号出版記念会
29日 町内壮年グループ研修会
十一月
5日 若妻全町集会
5日 三里担い手センター竣工式

合川町入院介護人の募集について

町社会福祉協議会では、町立国保診療所の町内の入院者で特に必要な人のための入院介護人を募集しています。

町内に在住する心身ともに健全な女性で、福祉活動に理解と熱意を有するもので、民生委員の推せんによって、会長が選任し登録する。年齢は問いません。二、介護の内容
食事、排せつ、入浴など身のまわりの世話、用務。介護人の派遣は患者世帯の生計の中心となる人が、社会福祉協議会に申請し、協議の上、介護条件などを決定します。

みんなで作る

たすけあいのせうじく

あかろく田んぼ

東小学校三年生 純一さん

福祉の町

児童読書感想文から「じいばいわたれ」

を讀んで

東小学校二年 片山久美子さん

東京から、いなかへ転校してきたトッコちゃん、サブくん、とミヨちゃん、タカシくんは、「くやしかったらつりばいわたれ」といわれました。それは、せつかくあそびにきたのに、よわみを見せたくないで東京のじま

ほんとうは、トッコちゃんはさびしくてさびしくてたまらないのに、心とはんたいのことをしたのでわらうと思ひます。はじめは、花をつんだり、ちようちよをおいかけてたりしてめずらしかったことが、だんだんおもしろくなつて、東京にいるママをおもいだし、山にむかって「まーまー、まーまー」とさけんだら、その声が「まーまー、まーまー」と、小さく、大きく、いくつもかえつた時のようすが、



23

農地の転用

田畑を他の地目(宅地、山林原野)に変更する場合は農業委

許可が必要です

○介護人と介護申請者との間には、雇用関係はなく町社会福祉協議会が責任を持ちます。○介護人は個人の秘密を守るなど、介護人制度について必要です。介護人制度については町の問い合わせは、町社会福祉協議会(役場内)におよせください。

無料人権相談所

次のとおり人権相談所が開かれます。土地や家の問題、近所や家庭内のもめごとなど、心配ごとを気軽に相談ください。町の人権擁護委員と法務局職員が相談に応じ、秘密は厳守されます。

年金は慎重に!!

老齢年金の支給開始は六十五歳ですが、本人の希望六十歳から支給を受けることができます。六十歳から六十四歳で支給を受けることと次の率の年金しかもらえません。

合川中学校でも募金協力

募金協力

「私たちも、福祉の町の一員!!」と合川中学校では、手作りの空き缶募金箱で共同募金を呼びかけ、このほど全校生徒、職員、善意をまとも校長(社会福祉協議会長)に届けられました。

善意の(ご)寄付

(敬称略)

〔香典返しにかえて〕

畠山要助 木戸石(故母 サワ)

鈴木賢蔵 新田目(故母 ハナ)

佐藤 章 川井(故 父 一郎)

金田隆雄 西根田(故母 ヅナ)

木村正市 李岱(故母 ユワ)

杉淵カヨ 木戸石(故 夫 次郎)

慶弔だより

10月届

○お誕生おめでとうございます

山田英賢 市右衛門長男 金沢

工藤重実 忠志二女 上杉

木村秀則 知剛長男 下杉

伊藤麻衣子 鉄勝長女 杉山田

桜田大和 進 長男 東根田

森岡 梢 照雄長女 道城

金田可南子 潤 長女 西根田

●謹んでお祝い申し上げます

金田ツナ 隆雄 母 西根田

鈴木ハナ 賢蔵 母 新田目

木村ユワ 正市 母 李岱

三上タエ 本人 木戸石

佐藤一郎 本人 川井

わが家のわたしの宝もの

15

『合川一号!』

話題の多収稲



羽根山 金田謙吉さん

「アキユタカを刈ってもらっている時に、前の方に1本だけヒョイと長い稲がありました。コンバインの先に走って、急いでぬき取って穂を数えると430粒もなっていました。これはすごいなと思って、それを種にしてふやしてみました。3せんぶの田で4時半あがりました。」金田さんつくった稲が新聞などで紹介され、産業文化祭でも大きな関心を集めました。金田さんは町内外からの問い合わせなどに「あまり反響が大きいのでビックリしています」と、とまどいを見せています。

「いもちにも冷害にも強いようです。今年、わずか、モンガシに葉をかけた。アキユタカより3日ぐらい遅く、キヨニシキよりもやや早く穂が出ました。」金田さんは夫婦ともに勤めのある体。「篤農家でもないのに」と笑います。しかし「水が不便なところなので、毎日、田を見に行きます。朝と夕に回ることもあります。忙がしさにまぎれてしまえば、見のがしていたでしょう。」良い種が、金田さんに熱心に育てられて、1反歩(10a)にすると約15俵(900kg)もの成績につながったようです。

「今年の秋は、あんまり見事で田を見ないとおちつきませんでした。飲米にして、他の人にも食べてもらったりしました。アキユタカよりもおいしいと思います。」金田さんの稲は農業試験場で、田んぼの土をふくめて分析中。結果がわかるのは早くも来年以降です。農家の大きな期待をうけて、金田さんはひとまず『合川1号』と名前をつけました。「私の名前を入れたとすすめてくれましたが、地名がわかるようにしたいと話して決めました。条件の良い3反歩田に植えたらどうなるか、楽しみです。」金田さんの長男は、誘致企業に就職して、現在研修中とのこと。「何をやっても、よえてねえのだから、がんばれと言っています。親がつくったぐらいの田はつくってくれるでしょう。」今、一番の楽しみは誘致企業が操業する日だと言います。